

## 三条市租税教育推進協議会長賞

### 支え合う未来へ

三条市立大崎学園 九年 小野 おもかもか 百花

私は今まで税について詳しく知らなかった。税金が、どこでどのように使われているのか理解しないまま、何となく「税金は払わなければいけないもの」と思い、消費税として払っていたのだ。

税について深く考えるようになったきっかけは、家の近くに介護施設ができたことだった。私は新しくできた施設が気になり、インターネットで介護のことについて調べてみることにした。調べて分かったことは、まず、公的な介護施設の建設や運営には税金が多く関わっているということだ。すべての人が安心して介護を受けられる社会を作るために、税金は使われている。私は自分が払った税金がどのように使われているのか知らなかったため、最初はとても驚いた。だが、よく考えてみると、例えば学校には車椅子専用の大きめのトイレや階段に手すりがついていたりなど、みんなが過ごしやすい環境が備わっていることに気づいた。これらは全てバリアフリーと呼ばれ、障がいのある方でも安心して暮らせるためにあり、教育を全ての子どもに平等に与えるために税金が使われている。これと同じように、介護施設全体も税金と関わっているということだ。高齢化が進む日本では、高齢者が安心して生活を送るために、施設だけでなくサービスなどの事業に係る費用にも税金が使われている。介護サービスを受ける人の

介護保険のお金の半分以上は、税金でまかなわれているということだ。私はこれらの税金の仕組みを知って、高齢者が安心して暮らせるように、税金は存在するのだと思った。そして、その平等を国民全員で作りに上げるために、税は存在するのだと考えた。

だが一つ問題がある。それは高齢化が進んでいるため、社会保障費を負担する働き手が減っているということだ。若い人の働き手が減っているため、納税する人も減り、高齢者を支えることが難しくなりつつある。どの世代も暮らしやすい社会にするにはどうしたら良いのだろうか。バリアフリーや介護施設を増やして新たに作ることに税金が大切になってくるのだ。だが、若い人の働き手が減っているのもあり、高齢者を支えることが困難になりつつあるので問題視されている。

私は、高齢化と介護施設の税の関係について調べてみて、納税はより良い社会づくりに大きく関係していることを知った。公的な介護施設を作ることにも、介護サービスにも税金が使われている。高齢者を支えるためにも税金は大切だということだ。私は、高齢化が進んでいる今だからこそ、世代間関係なく国民全員で支え合っていくことが大切だと考えた。私は将来、納税する立場になる。そのときに、みんなが暮らしやすい社会づくりに少しでも貢献できるように、今からでも税について勉強しようと思う。そして、これからの社会を支えていけるような人になりたい。